

洞爺湖ビジターセンター 2015年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

1月30日(土) キッチン火山じっけん



遅くなりましたが、新年明けましておめでとうございます。今年も洞爺湖ビジターセンター・火山科学館をよろしくお願いいたします。今冬の洞爺湖は昨年に引継ぎ雪が少ないですが、冷え込みは厳しいように感じます。このところ、最高気温がー(マイナス)である「真冬日」の連続です。そんなキンキンに冷えた洞爺湖ですが、2016年1回目の自然ふれあい行事は室内で「キッチン火山じっけん」を行いました。チョコレートやココアなど、食べられる材料を使って火山のメカニズムを学ぼうという企画です。



実験に使うチョコレートを溶かしているところ。自分たちで作業をしました。



ココアで作った大地です。ここからマグマが出てくるとどうなるか観察します。

まず、洞爺湖の成り立ちや有珠山の活動の歴史をスライドショーで勉強しました。洞爺湖は昔から火山活動が盛んな地域で、洞爺湖も火山活動が原因で誕生したカルデラ湖です。洞爺湖の南側にある有珠山は約350年前から9回もの噴火を繰り返している活火山です。そのマグマはねばりけが強いため、地上に出てきても流れ出さず、そのまま固まって「溶岩ドーム」になります。今回はチョコレートをマグマ、ココアを大地に見立て、溶岩ドームが出来てゆく様子を再現しました。ココアで作った大地は想像以上にリアルで、チョコレート(マグマ)が上がって来るときの地割れや隆起も観察できました。

このあと、むしパンを作る実験を行い、空気をふくんでむしパンがふくらんでいく様子から、噴火の仕組みや軽石のでき方を学びました。最後に洞爺湖や有珠山のクイズで学んだことのおさらいをして、行事は終了しました。

今回の行事では、おいしく楽しく火山じっけんをして洞爺湖や有珠山のことを良く知るきっかけになったと思います。有珠山の噴火はおそろしいことですが、行事の参加者のみなさんは噴火の仕組みを知ることによって、少し安心して暮らせるようになったようです。自然と共に暮らすにはまず、自然を知ることが大事なのです。



ココアの地面から、チョコレートの「溶岩ドーム」が出てきました。実験のあとは生チョコとして、おいしくいただきます！

